2016 年度プロジェクト活動報告：根尾コ・クリエイション

■プロジェクト代表：金山智子　　分担者：小林孝浩、James Gibson
　プロジェクト共同研究者：グレイセル（中原淳、中原千草）、TAB（西田拓馬）
　プロジェクト履修生：後藤良太、キム・イギョン、加藤明洋

■研究概要

　本プロジェクトは岐阜県本巣市の根尾地区（旧根尾村）において、何百年にも築かれてきた生活文化を、新しい技術や視点、価値観をもって捉え直し、これからの持続可能な地域社会やオルタナティブなシステムを考えていくことを目的として、2015 年より始められた。プロジェクト 2 年目となる本年は、前年作った活動拠点（ねおこ座）で地元の人たちとの交流を展開した。また、根尾の最北の集落群（奥三区）でのフィールドワークは継続的に実施するなかで、根尾の中でも、限界集落化され急速に風化されつつある奥三区のユニークな文化をどのように新しい表現としていくかをプロジェクトの一つの研究課題とした。8 月に開催された Summer Camp: Hack the World ではプロジェクトとして参加、ASEAN 諸国から来たクリエーターたちと一緒にフィールドワークを実施した。

　今年度の中でも最も注力したのは休耕地の活用である。人口減少や少子化などで使われなくなった農地の活用がどのように持続可能な社会につながるのかといった視点をベースに、荒地の耕作、地元の竹や間伐材を使用した柵作り、害獣対策、固定種による伝統農法、無農薬栽培、収穫などを行った。これらの作業を通して、周辺農家との交流が活発となり、地元の情報ネットワーク、独自の農業技術などを知る一方で、こちらも新しいデザインや食の楽しみ方、自然エネルギーやネットといった情報を伝える機会となり、贈与関係を構築することができた。休耕地を周辺農家のコミュニケーションを促進する半公共的スペースとして活用する学生の研究からも、休耕地の可能性につなげることができた。小さな休耕地の小さな活動は、生命、エネルギー、コミュニケーション、自然と人工、テクノロジーのあり方が全て持続可能な社会につながっていることを改めて体感させ、それを表現として発展させていくことを翌年度の課題としてすすめる。

　これまでの活動を地域活性学会で報告したが、これが機会となって名古屋大学や信州大学の研究者らとの交流がすすみ、根尾への視察も実施された。

■主な活動内容

◆フィールドワーク（８月～翌１月：越波、黒津、大河原、上大須、樽見）

◆畑作作業（４月～翌３月：休耕地の耕作、柵作り、植付け、収穫、種の採取）

◆イベントや交流（７月〜翌３月：ワークショップ、トーク、遊びなど）

◆成果発表（９月〜翌２月：学会発表、FW 冊子出版、根尾 fabric、IAMAS2017）

参考：金山智子・小林孝浩・Gibson, James・後藤良太・中原淳・西田拓馬「根尾コ・クリエイションプロジェクト：限界集落における新しい価値創出の試み」地域活性学会第８回研究大会(長野県小布施町) 2016 年９月